



2011年11月2日

2012年3月期第2四半期連結決算報告(2011年4月~9月)

- 見通しに沿った業績
- 建築用ガラス事業では市場の軟化が見られるが、付加価値品の貢献により業績は改善
- 自動車用ガラス事業の業績は日本の震災後減益となったが、需要は既に回復
- 機能性ガラス事業は、堅調継続
- 持分法適用会社利益は、前年並み
- 2012年3月期の業績見通しを世界経済の状況を反映し修正

見通しに沿った業績

- 営業利益への震災影響は40億円(32億円:自動車用ガラス事業、8億円:機能性ガラス事業)で、当初予想より20億円減少
- 震災影響を除くと、業績は予想を下回る
- 前年実績の修正表示を含めて、全て業績は国際会計基準(IFRS)で記載
- グループ売上は2,885億円(前年同期2,937億円)。前年比2%減収だが、為替変動を除くと1%増収
- 償却後営業利益は92億円(前年同期167億円)。東日本大震災による影響を反映

建築用ガラス事業では市場の軟化が見られるが、付加価値品の貢献により業績は改善

- 太陽光発電分野の数量の伸びは鈍化が見られるが、依然成長しており想定範囲内
- 成熟市場の北米および欧州では数量の回復が鈍化している
- 価格は前年同期より高いレベルで期間を通じて安定し、投入コストアップを相殺
- 建築用ガラス事業の売上は1,284億円(前年同期1,262億円)、営業利益は81億円(前年同期109億円。チリ地震の保険収益33億円を含んだ実績)

自動車用ガラス事業の業績は日本の震災後減益となったが、需要は既に回復

- カーメーカーの需要は、今四半期を通して通常レベル以上まで回復
- 短期的な値上げ範囲は限定的であることから、投入コストアップが利益を圧縮
- 需要の変動により欧州の収益性が低下
- 補修用(AGR)はミックス改善により堅調
- 自動車用ガラス事業の売上は1,282億円(前年同期1,347億円)、営業利益は37億円(前年同期68億円)

機能性ガラス事業は、堅調継続

- 携帯機器向け液晶ディスプレイの需要は更に伸張
- エンジンタイミングベルト用ゴムコードの売上は回復継続
- 機能性ガラス事業の売上は312億円(前年同期320億円)、営業利益は39億円(前年同期35億円)

持分法適用会社利益は、前年並み

- 持分法適用会社利益は43億円(前年同期42億円)
- ブラジルの建築用ガラス合弁会社(50%出資)であるセブラセの業績は横ばい
- ロシアの合弁会社の収益性は改善
- 中国の持分法適用会社は減益

2012年3月期の業績見通しを世界経済の状況を反映し修正

- 年間の売上見通しを5,800億円に、償却後営業利益見通しを250億円に修正
- 当社グループの主要市場では、回復のペースは鈍化
- 中国の過剰生産能力が徐々に東南アジア等で市場価格に影響しつつある
- 円高は、収益・資産の為替換算に影響している

連結損益計算書



(億円)	12年3月期 4月-9月期	11年3月期 4月-9月期	前年比
売上高	2,885	2,937	-2%**
無形資産償却前営業利益	129	205	
償却費*	(37)	(38)	
営業利益	92	167	
金融費用(純額)	(71)	(91)	
持分法による投資利益	43	42	
税引前利益	64	118	
当期利益	63	81	
親会社の所有者に帰属する利益	57	50	
EBITDA	290	375	-23%

*ピルキントン買収に伴って発生した無形資産の償却のみを考慮

**為替変動を除くと+1%

見通しに沿った業績

2011年11月2日 | 2012年3月期第2四半期決算報告